

厚生労働科学研究費補助金

地球規模保健課題解決のための行政施策に関する研究事業

国際会議で効果的な介入を行うための戦略的・効果的な

介入手法の確立に資する研究

(20BA1002)

令和3年度 総括・分担研究報告書

代表研究者・磯博康

令和4(2022)年5月

目次

I. 総括研究報告

国際会議で効果的な介入を行うための戦略的・効果的な介入手法の確立に資する研究-----1
磯博康

II. 分担研究報告

1. 日本における Global Health Diplomacy の強みと課題に関する分析-----5

研究分担者	磯 博康	国立国際医療研究センター グローバルヘルス政策研究センター センター長
	中谷 比呂樹	国立国際医療研究センター グローバルヘルス人材戦略センター センター長
	梅田 珠実	国立国際医療研究センター グローバルヘルス政策研究センター 客員研究員
	明石 秀親	国立国際医療研究センター 国際医療協力局 運営企画部長
	勝間 靖	国立国際医療研究センター グローバルヘルス政策研究センター 研究科長
	坂元 晴香	慶応義塾大学医療政策・管理学教室 特任助教
	細澤 麻里子	国立国際医療研究センター グローバルヘルス政策研究センター 主任研究員
	石塚 彩	国立国際医療研究センター グローバルヘルス政策研究センター 特任研究員
	齋藤 英子	国立国際医療研究センター グローバルヘルス政策研究センター 上級研究員

2. Global Health Diplomacy Workshop-----9

研究分担者	磯 博康	国立国際医療研究センター グローバルヘルス政策研究センター センター長
-------	------	--

中谷 比呂樹	国立国際医療研究センター グローバルヘルス人材戦略センター センター長
梅田 珠実	国立国際医療研究センター グローバルヘルス政策研究センター 客員研究員
明石 秀親	国立国際医療研究センター 国際医療協力局 運営企画部長
勝間 靖	国立国際医療研究センター グローバルヘルス政策研究センター 研究科長
坂元 晴香	東京女子医科大学 国際環境熱帯医学講座 准教授
細澤 麻里子	国立国際医療研究センター グローバルヘルス政策研究センター 主任研究員
石塚 彩	国立国際医療研究センター グローバルヘルス政策研究センター 特任研究員
齋藤 英子	国立国際医療研究センター グローバルヘルス政策研究センター 上級研究員

(資料) Global Health Diplomacy Workshop (2021) Course Overview

I 章

総括研究報告

厚生労働科学研究費補助金
(地球規模保健課題解決のための行政施策に関する研究事業)
総括研究報告書

「国際会議で効果的な介入を行うための戦略的・効果的な
介入手法の確立に資する研究」(20BA1002)

研究代表者 磯 博康 国立国際医療研究センター 国際医療協力局
グローバルヘルス政策研究センター センター長

研究要旨

日本の保健分野の国際協力は、G8 洞爺湖サミット以来、一貫して保健システムの強化や Universal Health Coverage の主流化を先導してきたことが国際的に高い評価を得ており、我が国の国際保健外交を牽引する国内関係者や専門家の経験が積み重ねられてきている。しかしながら、それらの土台となる知見や国際会議の経験は、必ずしも系統的に分析されて共有可能な形でとりまとめられたり、若手の国際保健人材育成に活用されたりするには至っていない。

本研究は、グローバルヘルスの今日的課題に関する経緯や、日本及び各国政府の動向を分析したうえで、我が国が国際的な議論に戦略的に介入し、日本の立場を主張するための手法開発と若手や中堅実務者向けの効果的な教育プログラムの確立を目的としている。今年度は、米国ジョージタウン大学外交ケーススタディ教材を用いてグローバルヘルス外交の主要課題の教材化について輪読会の形式で検討し、各課題について日本の強みと課題を分析した。保健課題は「家族計画・人口問題」「官民連携」「新興感染症・健康危機」「知的財産、医薬品へのアクセス」「国際保健における支援の枠組み」を取り扱った。

また本年度 12 月に開催されたグローバルヘルス外交ワークショップでは、輪読会および 10 月の対面型ワークショップでの議論を踏まえ、日本のみならず、タイ政府から該当領域の専門家を招聘し、講義と質疑応答および対面式の演習を行った。講義の内容は、グローバルヘルス外交の流れ、人材育成、国際会議での発言様式、介入への準備、発言原稿の形成、交渉の原則、日本の国連での介入の実例と課題、公衆衛生上の交渉課題、多様な機関とのパートナーシップと多岐にわたり、さらに対面式演習を行った。

今年度実施した研究から得られた知見は、今後の教材開発や教育プログラム策定に活かし、我が国が国際的な議論に戦略的に介入して日本の立場を主張し、国益及び国際的な平和を守る人材の育成に貢献するものである。

研究代表者：

磯 博康 国立国際医療研究センター
グローバルヘルス政策研究センター
センター長

研究分担者：

中谷 比呂樹 国立国際医療研究センター
グローバルヘルス人材戦略センター
センター長

梅田 珠実 国立国際医療研究センター
グローバルヘルス政策研究センター
客員研究員

明石 秀親 国立国際医療研究センター
国際医療協力局 運営企画部長

勝間 靖 国立国際医療研究センター
グローバルヘルス政策研究センター
研究科長

坂元 晴香 東京女子医科大学
国際環境熱帯医学講座 准教授

細澤 麻里子 国立国際医療研究センター
グローバルヘルス政策研究センター
主任研究員

石塚 彩 国立国際医療研究センター
グローバルヘルス政策研究センター
特任研究員 (2021年8月末まで)

齋藤 英子 国立国際医療研究センター
グローバルヘルス政策研究センター
上級研究員

A. 研究目的

日本の保健分野の国際協力は、G8 洞爺湖サミット以来、一貫して保健システム強化や Universal Health Coverage の主流化を先導してきたことが国際的に高い評価を得ており、2019年日本は、国連において初めて開

催された UHC ハイレベル会合にて、我が国が国際保健外交を牽引する姿勢を国際社会に示した。また、同年日本は G20 議長国を務め、UHC、高齢化への対応、健康危機・Antimicrobial Resistance (薬剤耐性) といった国際保健の重要施策の方向性について合意を形成したほか、Tokyo International Conference on African Development においてもそのプレゼンスを発揮するなど、グローバルヘルス外交における国内関係者や専門家の経験を積み重ねてきた。

しかしながら、それらの土台となる知見や国際会議の経験は、必ずしも系統的に分析されて共有可能な形でとりまとめられたり、若手の国際保健人材育成に活用されたりするには至っていない。

本研究は、World Health Organization (世界保健機関) 主要会合並びに総会を中心に、グローバルヘルスの今日的課題に関する経緯や、日本及び各国政府の動向を分析したうえで、我が国が国際的な議論に戦略的に介入し、日本の立場を主張するための手法開発と効果的な教育プログラムの確立を目的とする。

具体的には、WHO 主要会合並びに総会における討議内容や決議から、日本の介入が効果的な分野(強み)と介入しにくい分野(課題)を実証的に分析するとともに、各国のアプローチとの比較を行う(初年度)。その結果を踏まえ、WHO 会議において各国の対立が不可避なテーマ等についてケーススタディを行い、日本の立場を効果的に主張するための手法を開発する(2年目)。さらに、諸外国のグローバルヘルス外交にかかる政策研究機関の動向や、それらが有する研修プログラムの情報を収集・分析し、国

際保健人材育成のためのグローバルヘルス外交教材を開発し、研修プログラムを確立する（3年目）。

本研究の特色・独創的な点は、長年にわたり公衆衛生分野で国内外の人材育成をリードし、我が国の国際保健の政策研究拠点を担う研究代表者が、WHO 執行理事会議長の経験者をはじめ、実際に国際会議での交渉経験をもつ分担研究者をそろえ、国際会議のリアルワールドで現実に行われている様々な介入や交渉の情報を入手し活用しつつ、戦略的な分析と実践的な手法開発を行うことである。

B. 研究方法

本研究は3年計画で、WHO 主要会合並びに総会を中心に、グローバルヘルスの今日的課題に関する経緯や、日本及び各国政府の動向を分析し、我が国が国際的な議論に戦略的に介入し、日本の立場を主張するための介入手法、グローバルヘルス外交教材、効果的な教育プログラムを開発する。その際、厚生労働省、外務省、国際協力機構、海外のグローバルヘルス政策実務機関、研究機関等と連携することで、より現実的で効果的な介入並びに有用な教材・研修プログラムの開発につなげる。

上記目的を視野に令和3年度（次年度）は、ジョージタウン大学外交ケーススタディ教材の中からグローバルヘルス外交の主要課題に関わる7ケースを用いて輪読会を行った。第1回目でケーススタディ教材の一般的な利用方法について学習した後に、前半は各ケースについて輪読を行い、後半は前半で取り上げた課題について日本の事例について検討し、日本の強みと課題を分析した。参加対象者は、グローバルヘルス外

交に関わる実務家、行政官（厚生労働省や外務省）そしてアカデミアの若手からベテランまでとした。

さらに、令和3年12月に開催されたグローバルヘルス外交ワークショップでは、輪読会および令和3年10月の対面型ワークショップでの議論を踏まえ、国際会議で効果的な介入を行うための実践的なスキル習得のために、日本のみならず、タイ政府から該当領域の専門家を招聘し、講義と質疑応答および模擬世界保健総会方式で介入の演習を実施し、架空の議題をテーマに、決議案を含む会議文書の読解、対処方針の検討、交渉と会議での発言を、ロールプレイを通じて演習を行った。

（倫理面への配慮）

本研究は、人を対象とした研究ではないことから倫理審査の対象外である。

C. 研究結果

ケーススタディ輪読会では、米国ジョージタウン大学外交ケーススタディ教材を用いたグローバルヘルス外交の主要課題の中から、保健課題として「家族計画・人口問題」「官民連携」「新興感染症・健康危機」「知的財産、医薬品へのアクセス」「国際保健における支援の枠組み」を取り扱った。分析の結果、課題共通の日本のグローバルヘルス外交の強みとして、これまでの国際保健課題への関与を通して培ってきた実績と信頼がある、国際保健課題解決に活用できるような技術や政策実績がある、相手国での人材育成を含めた技術移転を行っている、国際保健課題について省庁横断的に協議するプラットフォームが形成されてきていることが挙げられた。課題としては今後日本が保

有する技術や政策実績を国際保健課題の解決に活用していくにあたっては、相手国の需要や文化的背景を踏まえた持続可能な形での支援の提供、民間企業への国際保健市場への参入プロセスの支援などを通じた官民連携の促進、国際機関での規範設定の場への戦略的な人材抛出、政策モニタリングを通じた国内外の関係者や国民の共通理解を醸成していく必要性があげられた。今後さらに検討を加えた上で日本におけるグローバルヘルス外交の教本化に役立てていく。本年度は、追加的にジュネーブ国際・開発研究大学院が出版した「A GUIDE TO GLOBAL HEALTH DIPLOMACY: Better health – improved global solidarity – more equity」を教材化するための検討を行い、来年度の教材作成のプロセスを整備した。

国際保健外交ワークショップでは、国際保健外交やガバナンスを理解するために、日本とタイの国際保健外交史の講義の後、世界保健総会（WHA）や主要関連会合における決議作成プロセスに関する講義を行った。また、国益の主張と国際益との調和の難しさを理解するために、交渉術に関するノウハウの講義、過去の主要保健議題に基づくケーススタディに関するオンライン講義を実施した。

対面式演習では、世界保健総会（WHA）や主要関連会合における決議作成プロセスに関する概要説明の後、実践的なスキル習得のために、模擬 WHA 方式で介入の演習を行った。具体的には、本ロールプレイ演習のために用意した WHO 執行理事会における架空の議題をテーマに、決議案を含む会議文書の読解、対処方針の検討、他国との交渉、会議での発言などを、一連のロールプレイを通じて、各国の意見が対立する中、どの

ように自国の主張を行うかという実践的な演習を行った。

今年度は新型コロナウイルス感染症対策として、オンラインでの講義と対面での演習というハイブリッド形式でのワークショップ実施を試みた。対面形式での演習を取ったことにより、参加者間および参加者と講師のやりとりが積極的に行われ、参加者からの終了時評価アンケートにおいても、活発に参加できた、細かいニュアンスを学ぶことができた、という意見が大多数であった。本ワークショップのような対面でのロールプレイ演習は、国際会議での暗黙知を共有するために効果的な方法であり、今後も継続して毎年実施していくことが望ましい。

D. 健康危険情報

該当なし

E. 研究発表

1. 論文発表

該当なし

2. 学会発表

該当なし

F. 知的財産権の出願・登録状況

（予定を含む。）

1. 特許取得

該当なし

2. 実用新案登録

該当なし

3. その他

該当なし

参考資料

該当なし

厚生労働科学研究費補助金（地球規模保健課題解決のための行政施策に関する研究事業）
分担研究報告書

日本における Global Health Diplomacy の強みと課題に関する分析

研究分担者	磯 博康	国立国際医療研究センター グローバルヘルス政策研究センター センター長
	中谷 比呂樹	国立国際医療研究センター グローバルヘルス人材戦略センター センター長
	梅田 珠実	国立国際医療研究センター グローバルヘルス政策研究センター 客員研究員
	明石 秀親	国立国際医療研究センター 国際医療協力局 運営企画部長
	勝間 靖	国立国際医療研究センター グローバルヘルス政策研究センター 研究科長
	坂元 晴香	慶應義塾大学 医療政策・管理学教室 特任助教
	細澤 麻里子	国立国際医療研究センター グローバルヘルス政策研究センター 主任研究員
	石塚 彩	国立国際医療研究センター（2021年8月末まで） グローバルヘルス政策研究センター 特任研究員
	齋藤 英子	国立国際医療研究センター グローバルヘルス政策研究センター 上級研究員

研究要旨

新型コロナウイルス感染症の世界的流行に代表されるように、近年急速に複雑化、広域化している国際保健課題に対応すべく、グローバルヘルス外交は、交渉の場、アクターとその役割は多様化している。日本がグローバルヘルス外交において各アクターと連携し、主導的役割を發揮し続けるためには、グローバルヘルス外交の歴史的経緯を踏まえ、各保健課題について領域横断的な教育を受けた人材の育成が急務である。

今年度は、米国ジョージタウン大学外交ケーススタディ教材を用いてグローバルヘルス外交の主要課題の教材化について輪読会の形式で検討し、各課題について日本の強みと課題を分析した。保健課題は「家族計画・人口問題」「官民連

携」「新興感染症・健康危機」「知的財産、医薬品へのアクセス」「国際保健における支援の枠組み」を取り扱った。分析の結果、課題共通の日本のグローバルヘルス外交の強みとして、これまでの国際保健課題への関与を通して培ってきた実績と信頼がある、国際保健課題解決に活用できるような技術や政策実績がある、相手国での人材育成を含めた技術移転を行っている、国際保健課題について省庁横断的に協議するプラットフォームが形成されてきていることが挙げられた。課題としては、相手国の需要や文化的背景を踏まえた持続可能な形での支援の提供、民間企業への国際保健市場への参入プロセスの支援などを通じた官民連携の促進、国際機関での規範設定の場への戦略的な人材抛出、政策モニタリングを通じた国内外の関係者や国民の共通理解を醸成していく必要性があげられた。今後さらに検討を加えた上で日本におけるグローバルヘルス外交の教本化に役立ていく。

A. 研究目的

新型コロナウイルス感染症の世界的流行に代表されるように、近年の複雑化、広域化している国際保健課題に対応すべく、グローバルヘルス外交は、交渉の場、アクターともに多様化している。具体的には、従来の二国間や世界保健総会の場における交渉にとどまらず、多国間や世界保健機構以外の国際機関、民間企業、非営利団体など多様なアクターが関わるようになり、課題によって各アクターの役割が変わるなど政策決定・合意形成のプロセスがさらに複雑になってきている。

これまでも日本は、保健システム強化やユニバーサルヘルスカバレッジ(UHC)の主流化をはじめとする国際保健分野の重要施策においてG7やG20、国際連合などのプラットフォームを活用しながら国際保健外交において主導的役割を担ってきた。しかし、昨今の複雑化・多様化するグローバルヘルス外交において、各アクターと連携し引き続き日本が主導的役割を發揮するためには、グローバ

ルヘルス外交の歴史的経緯や日本の果たしてきた役割について俯瞰的に理解し、各保健課題について領域横断的な教育を受けたグローバルヘルス外交人材の育成が急務である。

本研究班では、令和2年度に「21st century Global Health Diplomacy」を題材とした輪読会を開催し21世紀のグローバルヘルス外交の歴史的経緯を理解した上で、日本の強みと課題について分析した。その結果、各国際保健課題において多様化する国内外のアクターと連携し、国際的な合意形成を達成していくための戦略を策定・実践する人材の育成が重要な課題として挙げられた。これを踏まえ本年度は、米国のグローバルヘルス外交教材(ジョージタウン大学外交ケーススタディ教材)を用いて、グローバルヘルス外交の主要課題の教材化について学び、これらの課題について日本の強みと課題を分析することで、将来的な日本語版のケーススタディ教材作成の資料とすること目的とし、輪読会を開

催した。

B. 研究方法

ジョージタウン大学外交ケーススタディ教材の中からグローバルヘルス外交の主要課題に関わる7ケースを用いて輪読会を行った。第1回目でケーススタディ教材の一般的な利用方法について学習した後に、前半は各ケースについて輪読を行い、後半は前半で取り上げた課題について日本の事例について検討をし、日本の強みと課題を分析した。参加対象者は、グローバルヘルス外交に関わる実務家、行政官（厚生労働省や外務省）そしてアカデミアの若手からベテランまでとした。

（倫理的配慮）

本研究は、人を対象とした研究ではないことから倫理審査の対象外である。

C. 研究結果

2021年5月から全12回に渡り輪読会を開催した。取り上げたケースタイトルと課題は以下の通りである。

- ① More Than Just a Numbers Game? U.S. Policy on Global Population（家族計画・人口問題）
- ② Rolling Back Malaria by Nets: Do Public-Private Partnerships Work?（官民連携）
- ③ Global Governance of Disease（新興感染症・健康危機）
- ④ The 2014-2015 West Africa Ebola Outbreak: The Diplomacy of Response and Recovery in Guinea（新興感染症・健康危機）
- ⑤ Intellectual Property Rights, Drug Access, and the Doha Round（知的財産、医薬品へのアクセス）
- ⑥ Pharmaceuticals, Patents, and U.S. Trade Policy, Morality, Public Health, and the National Interest（知的財産、医薬品へのアクセス）
- ⑦ The President's Emergency Plan for AIDS Relief (PEPFAR)（国際保健における支援の枠組み）

また上記のグローバルヘルス外交課題について日本の強みと課題について分析したところ、以下が抽出された。

各課題共通の日本の強みとしては、

- ・ 世界有数のODA供与国であり、これまでも様々な国際保健課題に積極的に関与してきた実績と信頼がある。
- ・ 国内でも省庁横断的に国際保健政策について協議するプラットフォームが整備されてきており、省庁横断的な事業も展開されるようになってきている。
- ・ 人口政策、母子保健政策、生活習慣病対策、高齢化対策など、日本の国内保健政策に関する実績が海外の保健課題解決に役立てられる。
- ・ 国内に製薬会社やWHOの認証を取得しているような製品製造会社もあり、国際保健課題の解決に活用できるような技術がある。
- ・ 製品輸出にとどまらず、相手国における人材育成を含めた技術移転を行おうとしている。

一方共通の課題としては、以下があげら

れた。

- ・ 言語や文化の相違、日本の技術を利用した製品の海外での使用実績（エビデンス）が少ないこと、相手国の需要とのミスマッチがあることがある。
- ・ 知的財産権など関連する法的事項に詳しい人材が少ない。規範設定の場にいる人材が少ない。
- ・ 民間企業が国際保健領域に参入するためには持続可能なビジネスモデルの確立が必要。また、参入プロセスに対する支援が必要。
- ・ 国内部署間の国際保健政策に整合性がとれていないことがある。
- ・ 国際保健政策に関する国内外に対する情報発信が弱い。

D. 考察

主要なグローバルヘルス外交課題の教材を通して日本の事例や日本のグローバルヘルス外交の強みと課題を分析した。今後日本が国際保健課題の解決にさらに貢献していくためには、相手国の需要や文化的背景を踏まえた持続可能な形での支援の提供、民間企業への国際保健市場への参入プロセスの支援などを通じた官民連携の促進、国際機関での規範設定の場への戦略的な人材拠出、および政策モニタリングを通じた国内外の関係者や国民の共通理解を醸成していく必要がある。

E. 結論

ジョージタウン大学外交ケーススタディー教材を題材に、主要なグローバルヘルス外交課題が米国にてどのように教材化されているのかについて学び、これらの課題について

日本の事例を踏まえて日本のグローバルヘルス外交の強みと課題を分析した。今回の分析結果に基づき、日本語版のケーススタディ教材作成を行っていく。

謝辞

本研究を遂行するにあたり、輪読会の発表資料作成等でご協力いただいた以下の方々に深謝いたします。大川純代氏（国立国際医療研究センター国際医療協力局グローバルヘルス政策センター・上級研究員）、小林由佳氏（同・特任研究員）、佐田みずき氏（同・特任研究員）、谷口雄太氏（同・特任研究員）、六藤陽子氏（同・特任研究員）。また、輪読会にご参加いただいた皆様およびご発表いただいた国際医療協力局 小原ひろみ先生、清水栄一先生にも深謝いたします。

F. 健康機器情報

該当なし

G. 研究発表

1. 論文発表 該当なし
2. 学会発表 該当なし

H. 知的財産権の出願・登録状況

（予定を含む。）

1. 特許取得 該当なし
2. 実用新案登録 該当なし
3. その他 該当なし

厚生労働科学研究費補助金
(地球規模保健課題解決のための行政施策に関する研究事業)
分担研究報告書

Global Health Diplomacy Workshop

研究分担者	磯 博康	国立国際医療研究センター グローバルヘルス政策研究センター センター長
	中谷 比呂樹	国立国際医療研究センター グローバルヘルス人材戦略センター センター長
	梅田 珠実	国立国際医療研究センター グローバルヘルス政策研究センター 客員研究員
	明石 秀親	国立国際医療研究センター 国際医療協力局 運営企画部長
	勝間 靖	国立国際医療研究センター グローバルヘルス政策研究センター 研究科長
	坂元 晴香	東京女子医科大学 国際環境熱帯医学講座 准教授
	細澤 麻里子	国立国際医療研究センター グローバルヘルス政策研究センター 主任研究員
	石塚 彩	国立国際医療研究センター グローバルヘルス政策研究センター 特任研究員 (2021年8月末まで)
	齋藤 英子	国立国際医療研究センター グローバルヘルス政策研究センター 上級研究員

研究要旨

グローバルヘルスの課題が多様化および複雑化している中、我が国が国際的な議論に戦略的に介入し、日本の立場を効果的に主張するにはこれらを可能とする人材の育成が急務である。本研究では、その実現の一助としてグローバルヘルス外交に特化した能力強化ワークショップを企画・実施し、教育プログラムの開発と人材育成を図るものである。

令和3年12月に開催されたグローバルヘルス外交ワークショップでは、輪読会および10月の対面型ワークショップでの議論を踏まえ、日本のみならず、タイ政府から該当領域の専門家を招聘し、講義と質疑応答および対面式の演習を行った。講義の内容は、グローバルヘルス外交の流れ、人材育成、国際会議での発言様式、介入への準備、発言原稿の形成、交渉の原則、日本の国連での介入の実例と課題、公衆衛生上の交渉課題、多様な機関とのパートナーシップと多岐にわたり、さらに対面式演習を行った。対面式演習は、国際会議で効果的な介入を行うための実践的なスキル習得のために、模擬世界保健総会方式で介入の演習を実施し、架空の議題をテーマに、決議案を含む会

議文書の読解、対処方針の検討、交渉と会議での発言を、ロールプレイを通じて演習を行った。参加者は、行政（厚生労働省、外務省）、国際協力機構、シンクタンクなどから、国際会議の経験を有する、あるいは参加予定であるが国際会議の経験に乏しい官民の中堅・若手実務者15名が集まった。加えて、将来グローバルヘルス外交を担う医学部、公衆衛生大学院の学生など25名がオブザーバー参加した。新型コロナウイルス感染症下ではあったものの、感染対策を十分に講じた上でワークショップをオンラインと対面形式のハイブリッドで実施し、参加者間や講師との交流をできるだけ可能とするべく対策を講じたところ、研修参加者の反応は好評であった。

A. 研究目的

グローバルヘルスの課題が多様化および複雑化している中、我が国が国際的な議論に戦略的に介入し、日本の立場を効果的に主張するにはそのようなことを可能とする人材の育成が急務である。本研究では、グローバルヘルスの今日的課題および日本を含む主要国の動向を分析し、我が国が国際的な議論に戦略的に介入し、日本の立場を主張するための介入方法、グローバルヘルス外交教材、効果的な教育プログラムを開発すること、並びに厚生労働省、外務省、JICA、海外のグローバルヘルス政策実務機関、研究機関等と連携することで、より現実的で効果的な介入並びに有用な教材・研修プログラムの開発につなげることを目的としている。とりわけ、新型コロナウイルス感染症の世界的流行により、ウィズコロナ、ポストコロナに伴う地政学的変化の中で、国際益と国益とを調和をもって国際舞台で主張できる人材の養成が急務であり、その実現の一助としてグローバルヘルス外交に特化した能力強化ワークショップを企画・実施し、教育プログラムの開発と人材育成を図る。

B. 研究方法

1. ワークショップの実施

世界保健総会をはじめとするグローバルヘルスにおける主要国際会議にて、国際保健分野の課題における議論に戦略的に介入

し、日本の立場を効果的に主張できる人材を育成するため、グローバルヘルス外交に特化したワークショップを開催する。

対象は行政（厚生労働省、外務省）、国際協力機構、シンクタンクなどから、国際会議の経験を有する、あるいは参加予定であるが、国際会議の経験に乏しい官民の中堅・若手実務者を対象とする。また関連領域の大学院生および大学生を含む 30 名を上限とするオブザーバーも聴講者として参加する。

ワークショップは以下 7 点を目標に、タイ政府、日本政府および研究班分担研究者から講師を招いて、パブリック・スピーキング、交渉、効果的な介入、交渉が困難な保健課題のケーススタディなど国際保健外交に関する講義と演習のプログラムを構成する。

- (1) 国際機関（国連・国連の専門機関・パートナーシップ）におけるガバナンスの意味を理解する。
- (2) 国際会議前の国内調整と会議準備プロセスを理解する。
- (3) 国際会議の標準的なルールを理解する。
- (4) 国際会議で有効な発言をすることができる。
- (5) 国際会議の意思決定に自らの主張を反省させる技法を習得する。
- (6) 国際益と国益を調和させる姿勢を

涵養する。

(7) 国際会議の暗黙知を共有する。

2. ワークショップの評価

ワークショップでは、参加者を対象とした終了時評価アンケート調査を実施し、研修カリキュラムの評価に関するフィードバックを得る。アンケートはすべて任意の匿名回答とし、得られた結果を踏まえ、教材・研修プログラムのさらなる改善を図る。

(倫理面への配慮)

本研究における評価は、すべて匿名回答を用いるため、個人の同定は不可能であり、倫理審査の対象外であった。

C. 研究結果

令和3年12月18日～19日の二日間にわたり、感染対策を十分に講じた上で、オンラインによる講義および対面での演習を交えたハイブリッド形式でのワークショップを開催した（プログラム詳細は参考資料「Global Health Diplomacy Workshop (2021): Course Schedule Overview」を参照）。参加者は15名、オブザーバーは25名であった。

国際保健外交やガバナンスを理解するために、日本とタイの歴史の講義の後、世界保健総会（WHA）や主要関連会合における決議作成プロセスに関する講義が実施された。また、国益の主張と国際益との調和の難しさを理解するために、交渉術に関するノウハウの講義、過去の主要保健議題に基づくケーススタディに関するオンライン講義が実施された。

対面式演習では、世界保健総会（WHA）

や主要関連会合における決議作成プロセスに関する概要説明の後、実践的なスキル習得のために、模擬WHA方式で介入の演習を実施した。具体的には、本ロールプレイ演習のために用意したWHO執行理事会における架空の議題をテーマに、決議案を含む会議文書の読解、対処方針の検討、他国との交渉、会議での発言などを、一連のロールプレイを通じて、各国の意見が対立する中、どのように自国の主張を行うかという実践的な演習を行った。参加者は、数名ずつのチームに分かれ、各国の代表団（日本、米国、ドイツ、インドの4か国）として演習を行い、国際会議において経験豊富な講師陣が対面で効果的な介入方法について指導した。

ワークショップ終了時評価アンケート調査（表1～2、講師回答を含む）では、大半の参加者から「難しかった」「普通」といった回答が得られ、本ワークショップ演習の手応えを感じていたようであった。また参加度（表3）についても、ほとんどの参加者が「積極的に参加」「ある程度参加」と回答しており、少人数対面制でのロールプレイ演習の有用性が確認された。また本ワークショップから得られた気づきについてのコメントでは、表現の仕方や事前資料の読み込み、対処方針の重要性といった実務的な内容に加え、背景や国益等各国のスタンスの真の意味での理解、課題についての専門的な理解、国情の事前精査、他国との関係性を作ることなど、より包括的かつ専門的な気づきが多かったとの回答が多く見られた。改善点（表5）では、ワークショップ中の休憩時間の必要性やネットワーキングの時間を設けてほしいという希望があったため、次回以降対応していく予定である。

D. 考察

今年度は新型コロナウイルス感染症対策として、オンラインでの講義と対面での演習というハイブリッド形式でのワークショップ実施を試みた。対面形式での演習を取ったことにより、参加者間および参加者と講師のやりとりが積極的に行われ、参加者からの終了時評価アンケートにおいても、活発に参加できた、細かいニュアンスを学ぶことができた、という意見が大多数であった。本ワークショップのような対面でのロールプレイ演習は、国際会議での暗黙知を共有するために効果的な方法であり、今後も継続して毎年実施していくことが望ましい。

E. 研究発表

1. 論文発表

該当なし

2. 学会発表

該当なし

F. 知的財産権の出願・登録状況

(予定を含む。)

1. 特許取得

該当なし

2. 実用新案登録

該当なし

3. その他

該当なし

参考資料

1. Global Health Diplomacy Workshop (2021): Course Schedule Overview (ワークショップ概要)

表1. 参加者/オブザーバー属性 (回答アンケート)

		Number	Percent
Age range	20-29	9	33%
	30-39	14	52%
	40-49	2	7%
	50-59	2	7%
	60 and over	0	0%
Sex	Male	7	26%
	Female	20	74%
Experience in Global Health Diplomacy	With experience	8	31%
	No experience	18	69%

表2. 各セッション難易度 (%、演習参加者のみ回答)

	Number of Respondents*	Very Difficult	Difficult	Medium	Easy	Very Easy
Team deliberation	16	6.3%	25.0%	50.0%	12.5%	6.3%
Bilateral meeting roleplay	16	12.5%	56.3%	31.3%	0.0%	0.0%
Mock-up Session (Plenary #1, #2)	16	12.5%	50.0%	37.5%	0.0%	0.0%
Mock-up Session (Working Group)	16	31.3%	37.5%	31.3%	0.0%	0.0%

*講師 1 名を含む

表3. 各セッション参加度（%、演習参加者のみ回答）

	Number of Respondents*	Weakly participated	Somewhat participated	Actively participated
Team deliberation	16	6.3%	18.8%	75.0%
Bilateral meeting roleplay	16	6.3%	50.0%	43.8%
Mock-up Session (Plenary #1, #2)	16	18.8%	43.8%	37.5%
Mock-up Session (Working Group)	16	6.3%	43.8%	50.0%

*講師 1 名を含む

表4. 国際会議で効果的な介入をするために必要なこととは何か、本ワークショップから得られた気づきについて（自由回答）

No	コメント(自由回答)
1	国際会議に行く前の日本での下準備、事前のバイ協議での情報収集や根回し。会議本番では、最初は強めに我が国のポジションを伝えてみて、ここまでなら譲歩できるという落としどころを決めておくことなど、本当に多くの手法を得られました。
2	自分のポジションを理解する事も大事ですが 相手側のポジションを想像する、予想する事が大切だと思いました。
3	To research the situation of the nation we represent. To make the message clear and short.
4	情報収集、相手国のコンテキストを理解する、BTNA(妥協できる代替案)を持つておくなど事前の打ち合わせをしておく
5	良く、相手の話を聞くこと。話し方に気をつけること。意見として述べた場合でも前提がまったく異なる参加国もたくさんいるので、同じことを伝えるにも表現ぶりにはケアをするべきと実感しました。
6	事前のバイ協議の重要性。
7	どの国にとっても平等になる路線で妥協点を見つけることの重要性
8	各国代表団員及び事務局員との信頼構築。入念な事前準備
9	事前の根回し・各国の立場探りの重要性と、自国の利益を追求しつつも全体を俯瞰して良いプロポーザルを作ることの重要性、また主張を行う上で言葉の表現に気をつける必要があることなどを学びました。貴重なワークショップに参加することができ有り難く存じます。
10	国際会議の内容として、声明文作成に係る作業について知見を深めることができた。特に保健外交については教科書的な理解としては、どうして反対する国があるのかどうか意識を払いにくく、今回のワークショップは非常に有益でした。
11	資料精査、エビデンス収集の必要性。自国の現場だけでなく、その他の国にも当てはまるように説得性を持って説明する方法
12	資料精査の必要性、また担当国及び他国の状況の把握、及び応答の予想、有効な介入方法
13	譲歩できる案について協議する場の必要性(あるいは議長案)
14	Know the diplomacy language, negotiating before the meetings, English language proficiency, and knowing the data of your country and worldwide, and knowing the current measures taken in that agenda.
15	言葉遣いや他国の立場の尊重の有無によって印象が大きく左右されることを体感しました。
16	事前のバイ協議を含めた情報収集や根回しと、それに基づく戦略

表5. ワークショップ改善点（自由回答）

No	コメント(自由回答)
1	コーヒブレイクなどの時間を利用して..というのが本番だと思うのですが、せっかくなので参加者や開催者の皆様の自己紹介の時間があるとなおよかったです。どういう経緯や背景、モチベーションでこのワークショップに参加しているかなど。
2	2日目の午前中のセッションですが、準備を再考しても良いように思いました。実務的内容は固めて聞いた方が良くように思いました。
3	セッション用に、有用なワードリスト(反対するとき、賛成するときの話し出しなど)を一枚紙で配布するといいたと思う。
4	ありがとうございました。学んだことを実践する場がなかなかないので練習する場が今後もあると嬉しいです。講義資料をいただきたいです。
5	短い昼休みで昼食をとり、かつ会場までの移動が大変だった
6	初日の午前中に1回ブレイクがあると良いかと思いました。他は問題ございません。
7	外交については、講義形式であっても、対面でのほうがよりスキルやご経験を細部まで学べるように思いました。
8	グループメンバーに同じ組織の人が集められており、もう少し違う組織の方とネットワーキングしたかった。
9	事前資料と共に今回のロールプレイの流れ、及びどのような準備が必要かの共有が欲しい。
10	決定案の修正をしやすいようにチャットボックスに記入するよう促進すること(実際でも行われている)
11	Set requirements for the level of English language for the participants. Limiting the number of letters in each slide for the presentation (there was a presentation with too many words and it was hard to concentrate or understand well).
12	特にありません。ウェビナー、ワークショップ共に実践的でとても勉強になりました。二日間ありがとうございました！

Global Health Diplomacy Workshop (2021): Course Schedule Overview

Day 1, Saturday, 18 December 2021 Online (9:00-11:40) & On-Site (13:00-17:00)		
Time	Session Title	Speakers
8:50-9:00	Sign-in on zoom online	
9:00-9:30	*Self-introduction and course objectives	Prof. Hiroyasu Iso (Japan)
9:30-10:25	*World Health Organization and its role in global health governance (lecture)	Prof. Hiroki Nakatani (Japan)
	*Q&A in Japanese	
10:25-10:45	*Overview of global health diplomacy (lecture) *Q&A in English	Prof. Suwit Wibulpolprasert & Dr. Attaya Limwattanayingyong (Thailand)
10:45-11:40	*Preparing for WHA and drafting of interventions 1 (lecture)	Dr. Warisa Panichkriangkrai (Thailand)
	*Preparing for WHA and drafting of interventions 2 (lecture)	Dr. Yui Sekitani (Japan)
	*Preparing for WHA and drafting of interventions 3 (lecture)	Dr. Haruka Sakamoto (Japan)
	*Q&A in English/Japanese	
11:40-13:00	Travelling to the workshop venue	
13:00-13:15	Briefing on role-play sessions	Dr. Tamami Umeda
13:15-15:40	Team deliberation (50 min)	Group facilitators
	Bilateral meeting role-play (60 min)	
	Team deliberation (35 min)	
15:40-16:00	Break	
16:00-16:40	*Mock-up Session (Plenary #1)	Chair: Prof. Hiroki Nakatani Feedback from resource persons
16:40-17:00	Team deliberation	Group facilitators

Day 2, Sunday, 19 December 2021 Online (8:50-11:30) & On-site (13:00-17:00)		
Time	Session Title	Speakers
8:50-9:00	*Recap of Day 1 (Online)	Dr. Eiko Saito
9:00-9:30	*Using global health platforms and diplomacy to drive national interests (lecture)	Prof. Yasushi Katsuma (Japan)
	*Q&A in Japanese	
9:30-10:25	*Introduction to negotiations (lecture)	Mr.Charlie Garnjana-Goonchorn (Thailand)
	*Q&A in English	
10:25-10:35	Break	
10:35-11:30	*Real life negotiations: Case studies of difficult negotiations (lecture)	Dr. Satoshi Ezo (Japan)
	*Q&A in English	
11:30-13:00	Travelling to the workshop venue	
13:00-13:20	Team deliberation	
13:20-15:20	*Mock-up Session (Working Group)	Chair Country: TBD Feedback from resource persons
15:20-15:45	Break	Networking
15:45-16:30	*Mock-up Session (Plenary #2)	Chair: Prof. Hiroki Nakatani Feedback from resource persons
16:35-17:00	Wrap-up	Prof. Hiroyasu Iso

***Sessions online by zoom**

Red=Lectures in English; Purple = Roleplay sessions in English (Japanese language may be used occasionally)

■Speakers and Resource persons' list

Dr. Suwit Wibulpolprasert (タイ)

Vice Chair, International Health Policy Program Foundation (IHPF), Health Intervention and Technology Assessment Foundation (HITAF), International Health Policy Program (IHPP Thailand), Ministry of Public Health, Thailand

Dr. Attaya Limwattanayingyong (タイ)

Communicable Diseases Division, Department of Disease Control, Ministry of Public Health, Thailand

Dr. Warisa Panichkriangkrai (タイ)

International Health Policy Program (IHPP Thailand), Thailand

Mr. Charlie Garnjana-Goonchorn (タイ)
Ministry of Foreign Affairs, Thailand

Dr. Satoshi Ezoë 江副聡(日本)
Ministry of Foreign Affairs, Japan
外務省 国際協力局国際保健政策室長

Dr. Yui Sekitani 関谷悠以 (日本)
Ministry of Health, Labour and Welfare, Japan
厚生労働省 国際保健管理官

Prof. Kazuaki MIYAGISHIMA 宮城島一明 (フランス)
Visiting Professor, Institute of Tropical Medicine, Nagasaki University, Japan
長崎大学 熱帯医学研究所 客員教授

Prof. Hiroyasu Iso 磯博康 (日本)
Director, Institute for Global Health Policy Research (iGHP), National Center for Global Health and Medicine (NCGM)
国立国際医療研究センター(NCGM) 国際医療協力局グローバルヘルス政策研究センター(iGHP) センター長

Prof. Hiroki Nakatani 中谷比呂樹 (日本)
Director, Human Resource Strategy Center for Global Health (HRC-GH), NCGM
NCGM グローバルヘルス人材戦略センター(HRC-GH) センター長

Prof. Yaushi Katsuma 勝間靖 (日本)
Director, Department of Global Health Affairs & Governance, iGHP, NCGM
NCGM 国際医療協力局グローバルヘルス政策研究センター(iGHP) グローバルヘルス外交・ガバナンス研究科研究科長

Dr. Tamami Umeda 梅田 珠実 (日本)
Visiting researcher, iGHP, NCGM
NCGM 国際医療協力局グローバルヘルス政策研究センター(iGHP) 客員研究員

Dr. Hidechika Akashi 明石秀親 (日本)
Director, Department of Health Planning and Management, NCGM
NCGM 国際医療協力局 運営企画部 部長

Dr. Kenichi Komada 駒田謙一 (日本)
Assistant Director, Bureau of International Health Cooperation, NCGM
NCGM 国際医療協力局 医師

Dr. Haruka Sakamoto 坂元晴香 (日本)
Associate professor, Department of International Cooperation and Tropical Medicine, Tokyo Women's Medical University
東京女子医科大学国際環境・熱帯医学講座 准教授

Dr. Mariko Hosozawa 細澤麻里子 (日本)
Senior Researcher, Department of Global Health Metrics and Evaluation, iGHP, NCGM
NCGM 国際医療協力局グローバルヘルス政策研究センター(iGHP) 主任研究員

Dr. Eiko Saito 齋藤英子 (日本)
Senior Research Fellow, iGHP, NCGM
NCGM 国際医療協力局グローバルヘルス政策研究センター(iGHP) 上級研究員
NCGM Secretariat will also participate to assist the operation during the workshop.

研究成果の刊行に関する一覧

該当なし

令和 4年 3月 28日

厚生労働大臣 殿

機関名 国立研究開発法人
国立国際医療研究センター

所属研究機関長 職 名 理事長

氏 名 國土 典宏

次の職員の令和3年度厚生労働科学研究費の調査研究における、倫理審査状況及び利益相反等の管理については以下のとおりです。

1. 研究事業名 地球規模保健課題解決のための行政施策に関する研究事業
2. 研究課題名 国際会議で効果的な介入を行うための戦略的・効果的な介入手法の確立に資する研究
3. 研究者名 (所属部局・職名) 国際医療協力局 グローバルヘルス政策研究センター
 グローバルヘルス政策研究センター長
(氏名・フリガナ) 磯 博康・イソ ヒロヤス

4. 倫理審査の状況

	該当性の有無		左記で該当がある場合のみ記入 (※1)		
	有	無	審査済み	審査した機関	未審査 (※2)
ヒトゲノム・遺伝子解析研究に関する倫理指針	<input type="checkbox"/>	<input checked="" type="checkbox"/>	<input type="checkbox"/>		<input type="checkbox"/>
遺伝子治療等臨床研究に関する指針	<input type="checkbox"/>	<input checked="" type="checkbox"/>	<input type="checkbox"/>		<input type="checkbox"/>
人を対象とする医学系研究に関する倫理指針 (※3)	<input type="checkbox"/>	<input checked="" type="checkbox"/>	<input type="checkbox"/>		<input type="checkbox"/>
厚生労働省の所管する実施機関における動物実験等の実施に関する基本指針	<input type="checkbox"/>	<input checked="" type="checkbox"/>	<input type="checkbox"/>		<input type="checkbox"/>
その他、該当する倫理指針があれば記入すること (指針の名称:)	<input type="checkbox"/>	<input checked="" type="checkbox"/>	<input type="checkbox"/>		<input type="checkbox"/>

(※1) 当該研究者が当該研究を実施するに当たり遵守すべき倫理指針に関する倫理委員会の審査が済んでいる場合は、「審査済み」にチェックし一部若しくは全部の審査が完了していない場合は、「未審査」にチェックすること。

その他 (特記事項)

(※2) 未審査の場合は、その理由を記載すること。

(※3) 廃止前の「疫学研究に関する倫理指針」や「臨床研究に関する倫理指針」に準拠する場合は、当該項目に記入すること。

5. 厚生労働分野の研究活動における不正行為への対応について

研究倫理教育の受講状況	受講 <input checked="" type="checkbox"/> 未受講 <input type="checkbox"/>
-------------	---

6. 利益相反の管理

当研究機関におけるCOIの管理に関する規定の策定	有 <input checked="" type="checkbox"/> 無 <input type="checkbox"/> (無の場合はその理由:)
当研究機関におけるCOI委員会設置の有無	有 <input checked="" type="checkbox"/> 無 <input type="checkbox"/> (無の場合は委託先機関:)
当研究に係るCOIについての報告・審査の有無	有 <input checked="" type="checkbox"/> 無 <input type="checkbox"/> (無の場合はその理由:)
当研究に係るCOIについての指導・管理の有無	有 <input type="checkbox"/> 無 <input checked="" type="checkbox"/> (有の場合はその内容:)

(留意事項) ・該当する□にチェックを入れること。
・分担研究者の所属する機関の長も作成すること。

令和 4年 3月 28日

厚生労働大臣 殿

機関名 国立研究開発法人
国立国際医療研究センター

所属研究機関長 職 名 理事長

氏 名 国土 典宏

次の職員の令和3年度厚生労働科学研究費の調査研究における、倫理審査状況及び利益相反等の管理については以下のとおりです。

1. 研究事業名 地球規模保健課題解決のための行政施策に関する研究事業
2. 研究課題名 国際会議で効果的な介入を行うための戦略的・効果的な介入手法の確立に資する研究
3. 研究者名 (所属部局・職名) 国際医療協力局 グローバルヘルス人材戦略センター
グローバルヘルス人材戦略センター長
(氏名・フリガナ) 中谷 比呂樹・ナカタニ ヒロキ

4. 倫理審査の状況

	該当性の有無		左記で該当がある場合のみ記入 (※1)		
	有	無	審査済み	審査した機関	未審査 (※2)
ヒトゲノム・遺伝子解析研究に関する倫理指針	<input type="checkbox"/>	<input checked="" type="checkbox"/>	<input type="checkbox"/>		<input type="checkbox"/>
遺伝子治療等臨床研究に関する指針	<input type="checkbox"/>	<input checked="" type="checkbox"/>	<input type="checkbox"/>		<input type="checkbox"/>
人を対象とする医学系研究に関する倫理指針 (※3)	<input type="checkbox"/>	<input checked="" type="checkbox"/>	<input type="checkbox"/>		<input type="checkbox"/>
厚生労働省の所管する実施機関における動物実験等の実施に関する基本指針	<input type="checkbox"/>	<input checked="" type="checkbox"/>	<input type="checkbox"/>		<input type="checkbox"/>
その他、該当する倫理指針があれば記入すること (指針の名称:)	<input type="checkbox"/>	<input checked="" type="checkbox"/>	<input type="checkbox"/>		<input type="checkbox"/>

(※1) 当該研究者が当該研究を実施するに当たり遵守すべき倫理指針に関する倫理委員会の審査が済んでいる場合は、「審査済み」にチェックし一部若しくは全部の審査が完了していない場合は、「未審査」にチェックすること。

その他 (特記事項)

(※2) 未審査の場合は、その理由を記載すること。

(※3) 廃止前の「疫学研究に関する倫理指針」や「臨床研究に関する倫理指針」に準拠する場合は、当該項目に記入すること。

5. 厚生労働分野の研究活動における不正行為への対応について

研究倫理教育の受講状況	受講 <input checked="" type="checkbox"/> 未受講 <input type="checkbox"/>
-------------	---

6. 利益相反の管理

当研究機関におけるCOIの管理に関する規定の策定	有 <input checked="" type="checkbox"/> 無 <input type="checkbox"/> (無の場合はその理由:)
当研究機関におけるCOI委員会設置の有無	有 <input checked="" type="checkbox"/> 無 <input type="checkbox"/> (無の場合は委託先機関:)
当研究に係るCOIについての報告・審査の有無	有 <input checked="" type="checkbox"/> 無 <input type="checkbox"/> (無の場合はその理由:)
当研究に係るCOIについての指導・管理の有無	有 <input type="checkbox"/> 無 <input checked="" type="checkbox"/> (有の場合はその内容:)

(留意事項) ・該当する□にチェックを入れること。
・分担研究者の所属する機関の長も作成すること。

令和 4年 3月 28日

厚生労働大臣 殿

機関名 国立研究開発法人
国立国際医療研究センター

所属研究機関長 職 名 理事長

氏 名 國土 典宏

次の職員の令和3年度厚生労働科学研究費の調査研究における、倫理審査状況及び利益相反等の管理については以下のとおりです。

- 研究事業名 地球規模保健課題解決のための行政施策に関する研究事業
- 研究課題名 国際会議で効果的な介入を行うための戦略的・効果的な介入手法の確立に資する研究
- 研究者名 (所属部局・職名) 国際医療協力局 運営企画部長
(氏名・フリガナ) 明石 秀親・アカシ ヒデチカ

4. 倫理審査の状況

	該当性の有無		左記で該当がある場合のみ記入 (※1)		
	有	無	審査済み	審査した機関	未審査 (※2)
ヒトゲノム・遺伝子解析研究に関する倫理指針	<input type="checkbox"/>	<input checked="" type="checkbox"/>	<input type="checkbox"/>		<input type="checkbox"/>
遺伝子治療等臨床研究に関する指針	<input type="checkbox"/>	<input checked="" type="checkbox"/>	<input type="checkbox"/>		<input type="checkbox"/>
人を対象とする医学系研究に関する倫理指針 (※3)	<input type="checkbox"/>	<input checked="" type="checkbox"/>	<input type="checkbox"/>		<input type="checkbox"/>
厚生労働省の所管する実施機関における動物実験等の実施に関する基本指針	<input type="checkbox"/>	<input checked="" type="checkbox"/>	<input type="checkbox"/>		<input type="checkbox"/>
その他、該当する倫理指針があれば記入すること (指針の名 称:)	<input type="checkbox"/>	<input checked="" type="checkbox"/>	<input type="checkbox"/>		<input type="checkbox"/>

(※1) 当該研究者が当該研究を実施するに当たり遵守すべき倫理指針に関する倫理委員会の審査が済んでいる場合は、「審査済み」にチェックし一部若しくは全部の審査が完了していない場合は、「未審査」にチェックすること。

その他 (特記事項)

(※2) 未審査の場合は、その理由を記載すること。

(※3) 廃止前の「疫学研究に関する倫理指針」や「臨床研究に関する倫理指針」に準拠する場合は、当該項目に記入すること。

5. 厚生労働分野の研究活動における不正行為への対応について

研究倫理教育の受講状況	受講 <input checked="" type="checkbox"/> 未受講 <input type="checkbox"/>
-------------	---

6. 利益相反の管理

当研究機関におけるCOIの管理に関する規定の策定	有 <input checked="" type="checkbox"/> 無 <input type="checkbox"/> (無の場合はその理由:)
当研究機関におけるCOI委員会設置の有無	有 <input checked="" type="checkbox"/> 無 <input type="checkbox"/> (無の場合は委託先機関:)
当研究に係るCOIについての報告・審査の有無	有 <input checked="" type="checkbox"/> 無 <input type="checkbox"/> (無の場合はその理由:)
当研究に係るCOIについての指導・管理の有無	有 <input type="checkbox"/> 無 <input checked="" type="checkbox"/> (有の場合はその内容:)

(留意事項) ・該当する□にチェックを入れること。
・分担研究者の所属する機関の長も作成すること。

厚生労働大臣 殿

機関名 東京女子医科大学

所属研究機関長 職名 学長

氏名 丸 義朗

次の職員の令和 3 年度厚生労働科学研究費の調査研究における、倫理審査状況及び利益相反等の管理については以下のとおりです。

1. 研究事業名 地球規模保健課題解決推進のための行政施策に関する研究事業

2. 研究課題名 国際会議で効果的な介入を行うための戦略的・効果的な介入手法の確立に資する研究

3. 研究者名 (所属部局・職名) 医学部・准教授

(氏名・フリガナ) 坂元 晴香・サカモト ハルカ

4. 倫理審査の状況

	該当性の有無		左記で該当がある場合のみ記入 (※1)		
	有	無	審査済み	審査した機関	未審査(※2)
人を対象とする生命科学・医学系研究に関する倫理指針(※3)	<input type="checkbox"/>	<input checked="" type="checkbox"/>	<input type="checkbox"/>		<input type="checkbox"/>
遺伝子治療等臨床研究に関する指針	<input type="checkbox"/>	<input checked="" type="checkbox"/>	<input type="checkbox"/>		<input type="checkbox"/>
厚生労働省の所管する実施機関における動物実験等の実施に関する基本指針	<input type="checkbox"/>	<input checked="" type="checkbox"/>	<input type="checkbox"/>		<input type="checkbox"/>
その他、該当する倫理指針があれば記入すること (指針の名称:)	<input type="checkbox"/>	<input checked="" type="checkbox"/>	<input type="checkbox"/>		<input type="checkbox"/>

(※1) 当該研究者が当該研究を実施するに当たり遵守すべき倫理指針に関する倫理委員会の審査が済んでいる場合は、「審査済み」にチェックし一部若しくは全部の審査が完了していない場合は、「未審査」にチェックすること。

その他 (特記事項)

(※2) 未審査に場合は、その理由を記載すること。

(※3) 廃止前の「疫学研究に関する倫理指針」、「臨床研究に関する倫理指針」、「ヒトゲノム・遺伝子解析研究に関する倫理指針」、「人を対象とする医学系研究に関する倫理指針」に準拠する場合は、当該項目に記入すること。

5. 厚生労働分野の研究活動における不正行為への対応について

研究倫理教育の受講状況	受講 <input checked="" type="checkbox"/> 未受講 <input type="checkbox"/>
-------------	---

6. 利益相反の管理

当研究機関におけるCOIの管理に関する規定の策定	有 <input checked="" type="checkbox"/> 無 <input type="checkbox"/> (無の場合はその理由 :)
当研究機関におけるCOI委員会設置の有無	有 <input checked="" type="checkbox"/> 無 <input type="checkbox"/> (無の場合は委託先機関 :)
当研究に係るCOIについての報告・審査の有無	有 <input checked="" type="checkbox"/> 無 <input type="checkbox"/> (無の場合はその理由 :)
当研究に係るCOIについての指導・管理の有無	有 <input type="checkbox"/> 無 <input checked="" type="checkbox"/> (有の場合はその内容 :)

(留意事項) ・該当する□にチェックを入れること。
・分担研究者の所属する機関の長も作成すること。

厚生労働大臣 殿

機関名 国立研究開発法人
国立国際医療研究センター

所属研究機関長 職 名 理事長

氏 名 國土 典宏

次の職員の令和3年度厚生労働科学研究費の調査研究における、倫理審査状況及び利益相反等の管理については以下のとおりです。

1. 研究事業名 地球規模保健課題解決のための行政施策に関する研究事業
2. 研究課題名 国際会議で効果的な介入を行うための戦略的・効果的な介入手法の確立に資する研究
3. 研究者名 (所属部局・職名) 国際医療協力局 グローバルヘルス政策研究センター
特任研究員
(氏名・フリガナ) 石塚 彩 イシヅカ アヤ

4. 倫理審査の状況

	該当性の有無		左記で該当がある場合のみ記入 (※1)		
	有	無	審査済み	審査した機関	未審査 (※2)
ヒトゲノム・遺伝子解析研究に関する倫理指針	<input type="checkbox"/>	<input checked="" type="checkbox"/>	<input type="checkbox"/>		<input type="checkbox"/>
遺伝子治療等臨床研究に関する指針	<input type="checkbox"/>	<input checked="" type="checkbox"/>	<input type="checkbox"/>		<input type="checkbox"/>
人を対象とする医学系研究に関する倫理指針 (※3)	<input type="checkbox"/>	<input checked="" type="checkbox"/>	<input type="checkbox"/>		<input type="checkbox"/>
厚生労働省の所管する実施機関における動物実験等の実施に関する基本指針	<input type="checkbox"/>	<input checked="" type="checkbox"/>	<input type="checkbox"/>		<input type="checkbox"/>
その他、該当する倫理指針があれば記入すること (指針の名称:)	<input type="checkbox"/>	<input checked="" type="checkbox"/>	<input type="checkbox"/>		<input type="checkbox"/>

(※1) 当該研究者が当該研究を実施するに当たり遵守すべき倫理指針に関する倫理委員会の審査が済んでいる場合は、「審査済み」にチェックし一部若しくは全部の審査が完了していない場合は、「未審査」にチェックすること。

その他 (特記事項)

(※2) 未審査の場合は、その理由を記載すること。

(※3) 廃止前の「疫学研究に関する倫理指針」や「臨床研究に関する倫理指針」に準拠する場合は、当該項目に記入すること。

5. 厚生労働分野の研究活動における不正行為への対応について

研究倫理教育の受講状況	受講 <input checked="" type="checkbox"/> 未受講 <input type="checkbox"/>
-------------	---

6. 利益相反の管理

当研究機関におけるCOIの管理に関する規定の策定	有 <input checked="" type="checkbox"/> 無 <input type="checkbox"/> (無の場合はその理由:)
当研究機関におけるCOI委員会設置の有無	有 <input checked="" type="checkbox"/> 無 <input type="checkbox"/> (無の場合は委託先機関:)
当研究に係るCOIについての報告・審査の有無	有 <input checked="" type="checkbox"/> 無 <input type="checkbox"/> (無の場合はその理由:)
当研究に係るCOIについての指導・管理の有無	有 <input type="checkbox"/> 無 <input checked="" type="checkbox"/> (有の場合はその内容:)

(留意事項) ・該当する□にチェックを入れること。
・分担研究者の所属する機関の長も作成すること。

厚生労働大臣 殿

機関名 国立研究開発法人
国立国際医療研究センター

所属研究機関長 職 名 理事長

氏 名 國土 典宏

次の職員の令和3年度厚生労働科学研究費の調査研究における、倫理審査状況及び利益相反等の管理については以下のとおりです。

1. 研究事業名 地球規模保健課題解決のための行政施策に関する研究事業
2. 研究課題名 国際会議で効果的な介入を行うための戦略的・効果的な介入手法の確立に資する研究
3. 研究者名 (所属部局・職名) 国際医療協力局 グローバルヘルス政策研究センター
客員研究員
(氏名・フリガナ) 梅田 珠実・ウメダ タマリ

4. 倫理審査の状況

	該当性の有無		左記で該当がある場合のみ記入 (※1)		
	有	無	審査済み	審査した機関	未審査 (※2)
ヒトゲノム・遺伝子解析研究に関する倫理指針	<input type="checkbox"/>	<input checked="" type="checkbox"/>	<input type="checkbox"/>		<input type="checkbox"/>
遺伝子治療等臨床研究に関する指針	<input type="checkbox"/>	<input checked="" type="checkbox"/>	<input type="checkbox"/>		<input type="checkbox"/>
人を対象とする医学系研究に関する倫理指針 (※3)	<input type="checkbox"/>	<input checked="" type="checkbox"/>	<input type="checkbox"/>		<input type="checkbox"/>
厚生労働省の所管する実施機関における動物実験等の実施に関する基本指針	<input type="checkbox"/>	<input checked="" type="checkbox"/>	<input type="checkbox"/>		<input type="checkbox"/>
その他、該当する倫理指針があれば記入すること (指針の名称:)	<input type="checkbox"/>	<input checked="" type="checkbox"/>	<input type="checkbox"/>		<input type="checkbox"/>

(※1) 当該研究者が当該研究を実施するに当たり遵守すべき倫理指針に関する倫理委員会の審査が済んでいる場合は、「審査済み」にチェックし一部若しくは全部の審査が完了していない場合は、「未審査」にチェックすること。

その他 (特記事項)

(※2) 未審査の場合は、その理由を記載すること。

(※3) 廃止前の「疫学研究に関する倫理指針」や「臨床研究に関する倫理指針」に準拠する場合は、当該項目に記入すること。

5. 厚生労働分野の研究活動における不正行為への対応について

研究倫理教育の受講状況	受講 <input checked="" type="checkbox"/> 未受講 <input type="checkbox"/>
-------------	---

6. 利益相反の管理

当研究機関におけるCOIの管理に関する規定の策定	有 <input checked="" type="checkbox"/> 無 <input type="checkbox"/> (無の場合はその理由:)
当研究機関におけるCOI委員会設置の有無	有 <input checked="" type="checkbox"/> 無 <input type="checkbox"/> (無の場合は委託先機関:)
当研究に係るCOIについての報告・審査の有無	有 <input checked="" type="checkbox"/> 無 <input type="checkbox"/> (無の場合はその理由:)
当研究に係るCOIについての指導・管理の有無	有 <input type="checkbox"/> 無 <input checked="" type="checkbox"/> (有の場合はその内容:)

(留意事項) ・該当する□にチェックを入れること。
・分担研究者の所属する機関の長も作成すること。

令和 4年 3月 28日

厚生労働大臣 殿

機関名 国立研究開発法人
国立国際医療研究センター

所属研究機関長 職 名 理事長

氏 名 国土 典宏

次の職員の令和3年度厚生労働科学研究費の調査研究における、倫理審査状況及び利益相反等の管理については以下のとおりです。

1. 研究事業名 地球規模保健課題解決のための行政施策に関する研究事業
2. 研究課題名 国際会議で効果的な介入を行うための戦略的・効果的な介入手法の確立に資する研究
3. 研究者名 (所属部局・職名) 国際医療協力局 グローバルヘルス政策研究センター
研究科長
(氏名・フリガナ) 勝間 靖・カツマ ヤスシ

4. 倫理審査の状況

	該当性の有無		左記で該当がある場合のみ記入 (※1)		
	有	無	審査済み	審査した機関	未審査 (※2)
ヒトゲノム・遺伝子解析研究に関する倫理指針	<input type="checkbox"/>	<input checked="" type="checkbox"/>	<input type="checkbox"/>		<input type="checkbox"/>
遺伝子治療等臨床研究に関する指針	<input type="checkbox"/>	<input checked="" type="checkbox"/>	<input type="checkbox"/>		<input type="checkbox"/>
人を対象とする医学系研究に関する倫理指針 (※3)	<input type="checkbox"/>	<input checked="" type="checkbox"/>	<input type="checkbox"/>		<input type="checkbox"/>
厚生労働省の所管する実施機関における動物実験等の実施に関する基本指針	<input type="checkbox"/>	<input checked="" type="checkbox"/>	<input type="checkbox"/>		<input type="checkbox"/>
その他、該当する倫理指針があれば記入すること (指針の名称:)	<input type="checkbox"/>	<input checked="" type="checkbox"/>	<input type="checkbox"/>		<input type="checkbox"/>

(※1) 当該研究者が当該研究を実施するに当たり遵守すべき倫理指針に関する倫理委員会の審査が済んでいる場合は、「審査済み」にチェックし一部若しくは全部の審査が完了していない場合は、「未審査」にチェックすること。

その他 (特記事項)

(※2) 未審査の場合は、その理由を記載すること。

(※3) 廃止前の「疫学研究に関する倫理指針」や「臨床研究に関する倫理指針」に準拠する場合は、当該項目に記入すること。

5. 厚生労働分野の研究活動における不正行為への対応について

研究倫理教育の受講状況	受講 <input checked="" type="checkbox"/> 未受講 <input type="checkbox"/>
-------------	---

6. 利益相反の管理

当研究機関におけるCOIの管理に関する規定の策定	有 <input checked="" type="checkbox"/> 無 <input type="checkbox"/> (無の場合はその理由:)
当研究機関におけるCOI委員会設置の有無	有 <input checked="" type="checkbox"/> 無 <input type="checkbox"/> (無の場合は委託先機関:)
当研究に係るCOIについての報告・審査の有無	有 <input checked="" type="checkbox"/> 無 <input type="checkbox"/> (無の場合はその理由:)
当研究に係るCOIについての指導・管理の有無	有 <input type="checkbox"/> 無 <input checked="" type="checkbox"/> (有の場合はその内容:)

(留意事項) ・該当する□にチェックを入れること。
・分担研究者の所属する機関の長も作成すること。

令和 4年 3月 28日

厚生労働大臣 殿

機関名 国立研究開発法人
国立国際医療研究センター

所属研究機関長 職 名 理事長

氏 名 國土 典宏

次の職員の令和3年度厚生労働科学研究費の調査研究における、倫理審査状況及び利益相反等の管理については以下のとおりです。

- 研究事業名 地球規模保健課題解決のための行政施策に関する研究事業
- 研究課題名 国際会議で効果的な介入を行うための戦略的・効果的な介入手法の確立に資する研究
- 研究者名 (所属部局・職名) 国際医療協力局 グローバルヘルス政策研究センター
主任研究員
(氏名・フリガナ) 細澤 麻里子・ホソザワ マリコ

4. 倫理審査の状況

	該当性の有無		左記で該当がある場合のみ記入 (※1)		
	有	無	審査済み	審査した機関	未審査 (※2)
ヒトゲノム・遺伝子解析研究に関する倫理指針	<input type="checkbox"/>	<input checked="" type="checkbox"/>	<input type="checkbox"/>		<input type="checkbox"/>
遺伝子治療等臨床研究に関する指針	<input type="checkbox"/>	<input checked="" type="checkbox"/>	<input type="checkbox"/>		<input type="checkbox"/>
人を対象とする医学系研究に関する倫理指針 (※3)	<input type="checkbox"/>	<input checked="" type="checkbox"/>	<input type="checkbox"/>		<input type="checkbox"/>
厚生労働省の所管する実施機関における動物実験等の実施に関する基本指針	<input type="checkbox"/>	<input checked="" type="checkbox"/>	<input type="checkbox"/>		<input type="checkbox"/>
その他、該当する倫理指針があれば記入すること (指針の名称:)	<input type="checkbox"/>	<input checked="" type="checkbox"/>	<input type="checkbox"/>		<input type="checkbox"/>

(※1) 当該研究者が当該研究を実施するに当たり遵守すべき倫理指針に関する倫理委員会の審査が済んでいる場合は、「審査済み」にチェックし一部若しくは全部の審査が完了していない場合は、「未審査」にチェックすること。

その他 (特記事項)

(※2) 未審査の場合は、その理由を記載すること。

(※3) 廃止前の「疫学研究に関する倫理指針」や「臨床研究に関する倫理指針」に準拠する場合は、当該項目に記入すること。

5. 厚生労働分野の研究活動における不正行為への対応について

研究倫理教育の受講状況	受講 <input checked="" type="checkbox"/> 未受講 <input type="checkbox"/>
-------------	---

6. 利益相反の管理

当研究機関におけるCOIの管理に関する規定の策定	有 <input checked="" type="checkbox"/> 無 <input type="checkbox"/> (無の場合はその理由:)
当研究機関におけるCOI委員会設置の有無	有 <input checked="" type="checkbox"/> 無 <input type="checkbox"/> (無の場合は委託先機関:)
当研究に係るCOIについての報告・審査の有無	有 <input checked="" type="checkbox"/> 無 <input type="checkbox"/> (無の場合はその理由:)
当研究に係るCOIについての指導・管理の有無	有 <input type="checkbox"/> 無 <input checked="" type="checkbox"/> (有の場合はその内容:)

(留意事項) ・該当する□にチェックを入れること。
・分担研究者の所属する機関の長も作成すること。

令和 4年 3月 28日

厚生労働大臣 殿

機関名 国立研究開発法人
国立国際医療研究センター

所属研究機関長 職 名 理事長

氏 名 國土 典宏

次の職員の令和3年度厚生労働科学研究費の調査研究における、倫理審査状況及び利益相反等の管理については以下のとおりです。

1. 研究事業名 地球規模保健課題解決のための行政施策に関する研究事業
2. 研究課題名 国際会議で効果的な介入を行うための戦略的・効果的な介入手法の確立に資する研究
3. 研究者名 (所属部局・職名) 国際医療協力局 グローバルヘルス政策研究センター
上級研究員
(氏名・フリガナ) 齋藤 英子・サイトウ エイコ

4. 倫理審査の状況

	該当性の有無		左記で該当がある場合のみ記入 (※1)		
	有	無	審査済み	審査した機関	未審査 (※2)
ヒトゲノム・遺伝子解析研究に関する倫理指針	<input type="checkbox"/>	<input checked="" type="checkbox"/>	<input type="checkbox"/>		<input type="checkbox"/>
遺伝子治療等臨床研究に関する指針	<input type="checkbox"/>	<input checked="" type="checkbox"/>	<input type="checkbox"/>		<input type="checkbox"/>
人を対象とする医学系研究に関する倫理指針 (※3)	<input type="checkbox"/>	<input checked="" type="checkbox"/>	<input type="checkbox"/>		<input type="checkbox"/>
厚生労働省の所管する実施機関における動物実験等の実施に関する基本指針	<input type="checkbox"/>	<input checked="" type="checkbox"/>	<input type="checkbox"/>		<input type="checkbox"/>
その他、該当する倫理指針があれば記入すること (指針の名称:)	<input type="checkbox"/>	<input checked="" type="checkbox"/>	<input type="checkbox"/>		<input type="checkbox"/>

(※1) 当該研究者が当該研究を実施するに当たり遵守すべき倫理指針に関する倫理委員会の審査が済んでいる場合は、「審査済み」にチェックし一部若しくは全部の審査が完了していない場合は、「未審査」にチェックすること。

その他 (特記事項)

(※2) 未審査の場合は、その理由を記載すること。

(※3) 廃止前の「疫学研究に関する倫理指針」や「臨床研究に関する倫理指針」に準拠する場合は、当該項目に記入すること。

5. 厚生労働分野の研究活動における不正行為への対応について

研究倫理教育の受講状況	受講 <input checked="" type="checkbox"/> 未受講 <input type="checkbox"/>
-------------	---

6. 利益相反の管理

当研究機関におけるCOIの管理に関する規定の策定	有 <input checked="" type="checkbox"/> 無 <input type="checkbox"/> (無の場合はその理由:)
当研究機関におけるCOI委員会設置の有無	有 <input checked="" type="checkbox"/> 無 <input type="checkbox"/> (無の場合は委託先機関:)
当研究に係るCOIについての報告・審査の有無	有 <input checked="" type="checkbox"/> 無 <input type="checkbox"/> (無の場合はその理由:)
当研究に係るCOIについての指導・管理の有無	有 <input type="checkbox"/> 無 <input checked="" type="checkbox"/> (有の場合はその内容:)

(留意事項) ・該当する□にチェックを入れること。
・分担研究者の所属する機関の長も作成すること。